

病院施設全国初^{※1}
配膳・運搬ロボット「Servi アイリスエディション」
日本医科大学千葉北総病院のコロナ専門病棟で導入



アイリスオーヤマ株式会社（本社：仙台市、代表取締役社長 大山 晃弘）は、ソフトバンクロボティクス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO：富澤 文秀）が開発・製造する配膳・運搬ロボット「Servi アイリスエディション」を日本医科大学千葉北総病院のコロナ専門病棟に全国の病院施設として初めて^{※1}本格導入しました。

「Servi アイリスエディション」は飲食店やホテル・旅館、小売店などで従業員と共に働くことを目的に開発された配膳・運搬ロボットです。新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の解除に伴い、事業を再開した飲食業界を中心に労働需要の急増に伴う人手不足が課題となっています。その解決策として、料理や食器類の配膳・下膳の業務を効率化することで省力化を実現できる配膳・運搬ロボットが注目されています。

今回、「Servi アイリスエディション」を1台導入した、日本医科大学千葉北総病院のコロナ専門病棟では、配膳・運搬ロボットを薬や備品等の物品の運搬という新たな分野で活用しています。導入前の試験では、1か月間で約69時間稼働し、導入コストを含めて1か月当たりおよそ8万円のコスト削減^{※2}を実現しました。また、ロボットはコロナ専門病棟に入出する際の感染防止備品の着用が不要なので防護服やマスク等の使用資源の削減につながり、コロナ専門病棟で本来業務に従事する医師や看護師の感染リスクや精神的負担の軽減にも貢献しています。

当社は、今後も日本医科大学千葉北総病院と連携し、「Servi アイリスエディション」による物品運搬を通常病棟でも検証し、人手不足が深刻な医療業界において、効率的な業務・労働環境改善ソリューションの提案と普及を進めていきます。

■日本医科大学千葉北総病院 導入事例紹介

<https://www.irisohyama.co.jp/b2b/robotics/case-studies/servi/case008.html>

※1 当社調べ。

※2 試算条件：1ヵ月約69時間稼働。看護師月給換算138,000円（2,000円/時間）、防護服等備品約41,375円/月（約150円/回）「Servi アイリスエディション」3年レンタルプラン月額99,800円にて計算。日本医科大学千葉北総病院より情報提供。

NEWS RELEASE

■ 「Servi アイリスエディション」について

「Servi アイリスエディション」は、ソフトバンクロボティクス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO：富澤 文秀）が提供する「Servi」に、業界ニーズに合わせたアイリスオーヤマ独自のオプションの追加を可能にした配膳・運搬ロボットです。

<p>画像</p>	 <p style="text-align: center;">サービィ SERVI — IRIS EDITION —</p>
<p>本体サイズ（ハンドル収納時）</p>	<p>幅：約 462mm×奥行：約 486mm×高さ：約 1046mm</p>
<p>トレイ寸法</p>	<p>上段/中段：直径 400mm（底面：直径 376mm） 下段：直径 368mm（底面：直径 322mm）</p>
<p>最大搭載重量</p>	<p>合計最大 30kg （トレイ別）上段/中段：最大 10kg、下段：最大 25kg</p>
<p>本体重量（バッテリー内蔵）</p>	<p>約 35kg</p>
<p>充電時間</p>	<p>約 4 時間</p>
<p>稼働時間</p>	<p>約 10～12 時間</p>
<p>バッテリー</p>	<p>リチウムイオンバッテリー</p>
<p>走行可能な通過幅</p>	<p>60cm 以上</p>
<p>走行可能な床</p>	<p>フラットな床（目安 0.5cm 以下）</p>
<p>走行速度</p>	<p>時速約 2km</p>
<p>言語対応</p>	<p>日本語 / 英語 / 韓国語</p>
<p>安全機能</p>	<p>障害物検知（LiDAR センサー、3D カメラ） 段差検知（3D カメラ）</p>
<p>付属品</p>	<p>充電器、電源ケーブル、フードトレイ（上段 / 中段用）×2、 バスケット（下段用）、専用 Wi-Fi ルーター、クイックガイド</p>

・「Servi アイリスエディション」詳細はこちら

<https://www.irisohyama.co.jp/b2b/robotics/products/servi/>